

国立国語研究所学術情報リポジトリ

『口語法分布図』と『方言文法全国地図』

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 雅子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002968

『口語法分布図』と『方言文法全国地図』

吉田雅子（国立国語研究所・研究開発部門）

最初におことわり申し上げるが、紙幅の都合上、本稿では研究発表内容の要旨・概略・一部の地図を挙げるにとどまる。2006H18年12月16日の公開研究発表会当日には、ポスターとスライドを用いて別資料も示しつつ、口頭でより詳細に説明を加える。

1. 本研究の目的と構想

発表者は、『口語法分布図』（以下「<口語法>」）と『方言文法全国地図』（以下「GAJ」）のデータを比較しながら、言語地理学的分析、通時分析等をおこなっていくことを考えている。<口語法>とGAJには、以下に述べるような相違点・共通点・問題点があることをふまえ、それらの要素の影響を十分に考慮しながら、分析・検討していきたい。

相違点：作成時代、制作目的、調査方法、製図方法、など

共通点：1機関によって1時期に一律な全国調査を実施、そのことによるデータ量の多さ、など

問題点：<口語法>と『口語法調査報告書』（以下「<報告書>」）の差異、上記相違点により単純比較できない困難さ、など

今回は、<口語法>とGAJを使う研究の構想とその基礎作業を紹介し、分析の一例を提示する。なお今回の分析には、1986S61年に国書刊行会より復刊された<口語法>と<報告書>を使用した。

2. 研究計画と作業手順

(1)<口語法>とGAJの対応関係を把握する。（→「3.<口語法>とGAJの対応」）

(2)<口語法>とGAJを比較しやすくするため、それぞれ略図を作成する。地図化項目と地図化の方針を決定する。

(3)作成した2つの略図を比較分析検討する。（→「4.<口語法>とGAJの比較」）

(4)<報告書>の内容をも取り入れ反映させた「新口語法分布図」を作成する。「新口語法分布図」は、口語法調査報告書研究グループ(※)が1996H08年に作成した、<報告書>に対応した白地図である。

(5)作成した<口語法>略図、GAJ略図、新口語法分布図の、3つの図を比較分析検討する。

このような作業により、以下のことが期待される。

- ・GAJと、<口語法>と、<報告書>のデータをふまえた分析ができる。
- ・分析作業に並行して、<口語法>、<報告書>のデータベース化が進められる。
- ・<口語法>、<報告書>のデータベースは、方言情報としてGAJ、LAJ(日本言語地図)のそれと合わせて使うことができる。また、GISによる多重分析のためのデータが蓄積される。

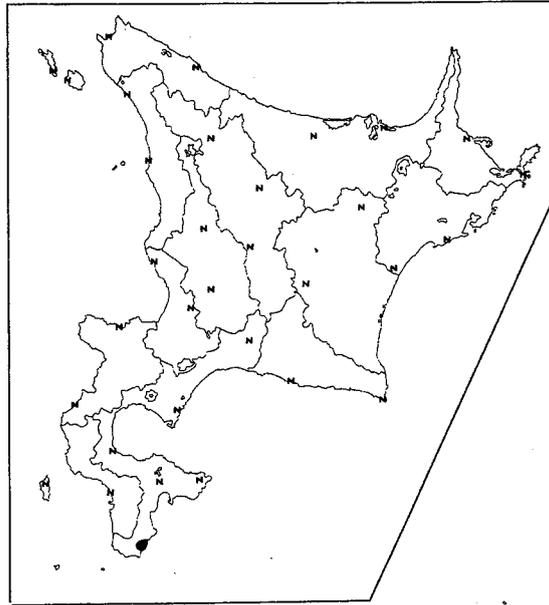
3. <口語法>とGAJの対応

後掲の【表】に、<口語法>に対応するGAJの地図・項目を挙げて示した。以下、本稿では<口語法>や<報告書>の内容を記載するにあたり、適宜旧字体を新字体に改めている箇所もある。表の1列目の「図」は<口語法>の番号。3列目の「条」は<口語法>の図に対応する<報告書>の調査項目条。「レ」は「<口語法>とGAJの対応レベル」のことで、●、△、×の3段階で表した。●は一致する項目、△は調査語彙などに違いはあっても文法面では一致する項目、×は対応する項目がないことを表す。

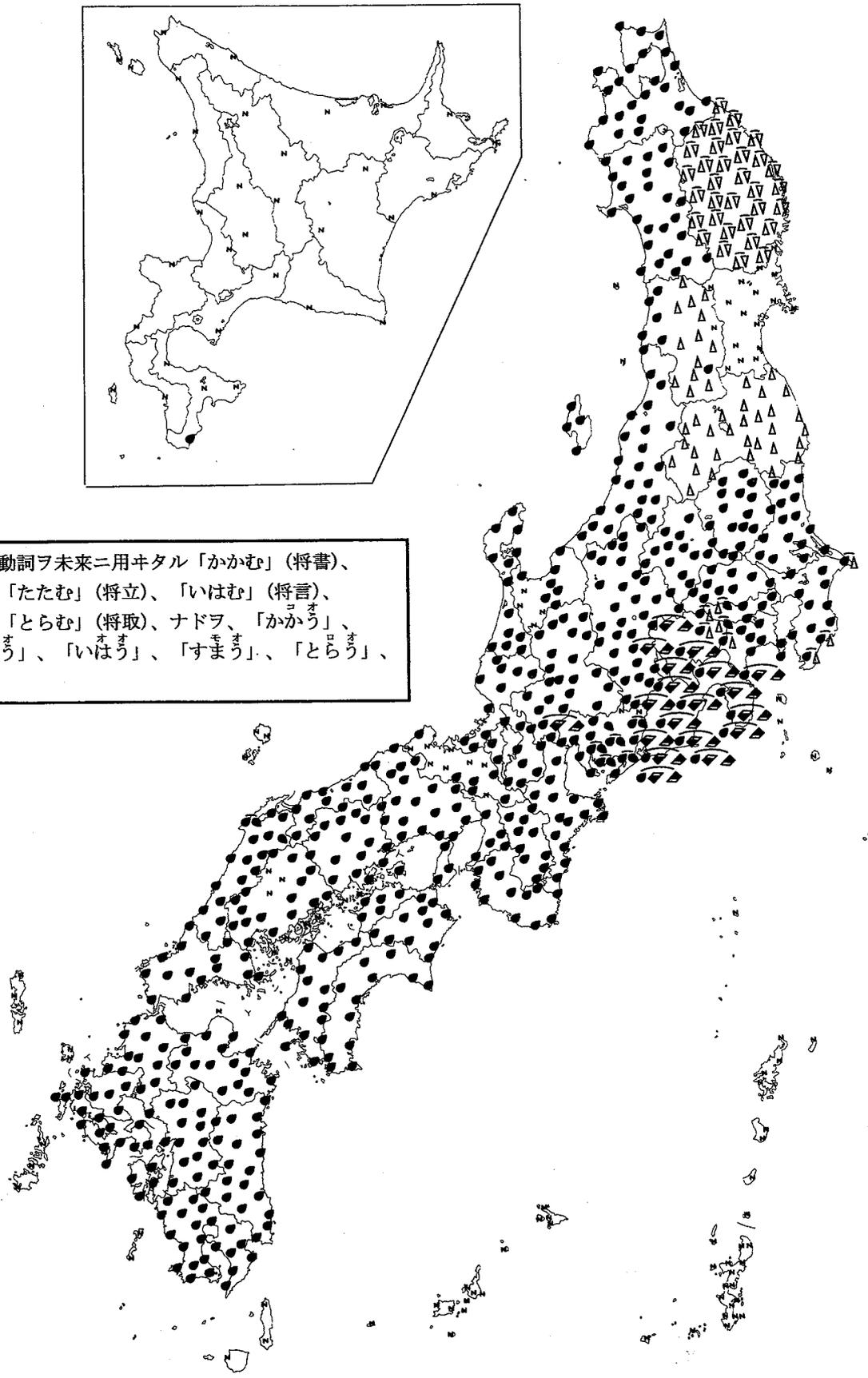
4. <口語法>とGAJの比較—<口語法>1図とGAJ109図「書こう(意志形)」—

後掲の【地図1】、【地図2】を見ながら、それぞれの地図化の方針、記号化の説明、分布の傾向を説明する。また、2図の比較から読み取れることを分析する。そして、作図や比較方法の諸問題についても述べる（本稿内では割愛）。

- カコー
- △ カクベー
- ▽ カクペー
- ◀ カカーズ
- ▶ カカズ
- カカー
- ＊ 無回答

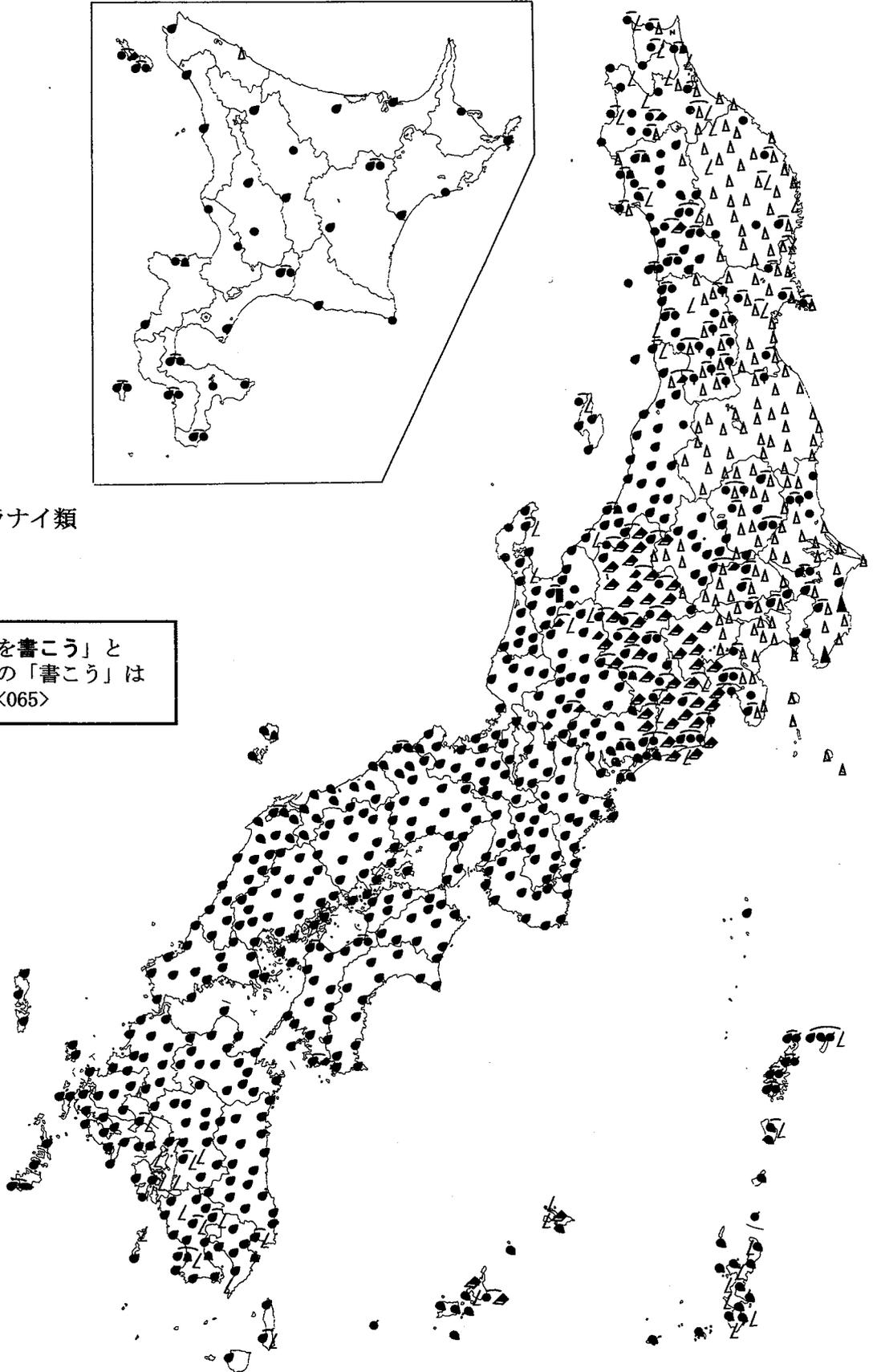
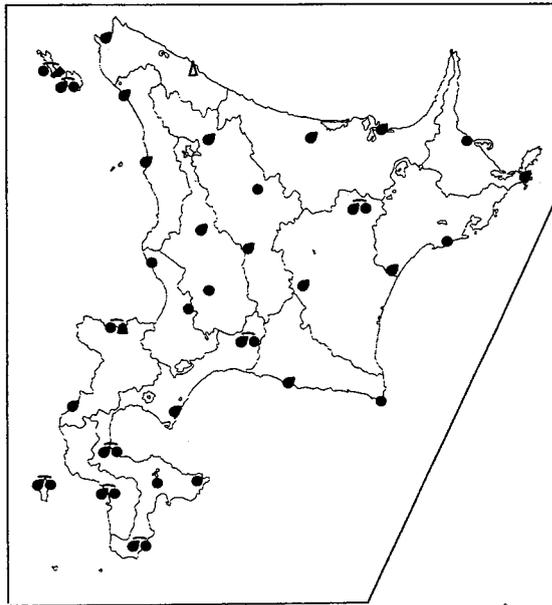


第二條 四段活用ノ動詞ヲ未来ニ用キタル「かかむ」(将書)、
 「おさむ」(将押)、「たたむ」(将立)、「いはむ」(将言)、
 「すまむ」(将住)、「とらむ」(将取)、ナドヲ、「かかう」
 「おさう」^{ソオウ}、「たたう」^{トオウ}、「いはう」^{イオウ}、「すまう」^{スオウ}、「とらう」^{トオウ}、
 ナド云フカ。



【地図1】〈口語法〉「1〔未来ノ云ヒ方〕「書かう」「書くべい」「書かず」(四段活用ノ語)等ノ分布図」GAJ式略図

- カコー類
- カク類
- △ カクベー類
- ◆ カクゾ類
- ▲ カクト類
- カクチャ類
- ▲ カイベー類
- カカー類
- ◆ カカズ類
- カッヨリ類
- カッカ類
- カキュン類
- ∟ カカネバ・
カカネバナラナイ類
- * 無回答



質問文：「手紙を書こう」と
つぶやくときの「書こう」は
どうですか。〈065〉

【地図2】GAJ109図「書こう(意志形)」略図

5. 展望と課題

〈口語法〉や〈報告書〉にはいくつかの先行研究があり、特に前述した口語法調査報告書研究グループによるデータベースや新口語法分布図や調査研究をいかにしながら、GAJ と合わせて分析していけば、そのデータ量の多さからも、多くの発見があると思われる。比較観点レベルとしては、全国図比較と、県単位での詳細比較の双方を実施する計画である。作業を進めながら、〈口語法〉と GAJ のデータの質の違いをとらえ、今後頻繁に実施されるであろう GIS を用いてのデータベース化・分析の際の研究方法的な観点も得たいと考えている。

課題の多くは、1 で述べた相違点・問題点に起因することが多いだろうが、同じく 1 で挙げた〈口語法〉と GAJ の共通点は比較分析の大きな好条件である。情報の宝庫といえる〈口語法〉と GAJ による研究を今後も継続する所存である。

※注、関連して参考文献を 1 点だけ挙げる。

口語法調査報告書研究グループ：「明治期国語調査委員会の方言研究資料に関する研究」（文部省科学研究費補助金一般研究 B、平成 8～10 年度、研究代表者徳川宗賢）の研究にあたったグループ。発表者もメンバーであった。次には、グループの成果の一部が発表されている。口語法研究グループ 2000 「口語法調査報告書研究グループ報告」『20 世紀フィールド言語学の軌跡“徳川宗賢先生追悼論文集”』変異理論研究会

【表】〈口語法〉と GAJ の対応（紙幅の都合上 18 図以降は割愛。ポスターに全掲する。）

図	〈口語法〉題目	条	対応する GAJ[集-地図番号<質問番号>地図題目]	レ
1	「書かう」「書くべい」「書かず」（四段活用ノ語）等ノ分布図	2	3-109<065>書こう（意志形）	●
2	「受けよう」「受けう」「受けべい」「受けず」（下二段活用ノ語）等ノ分布図	4	3-107<063>開けよう（意志形）	△
3	「来う」「来よう」「来べい」「来うず」等ノ分布図	6	3-110<064>来よう（意志形）	●
4	「為よう」「為う」「為べい」「為ず」等ノ分布図	7	3-111<062>しよう（意志形）	●
5	「ぬ」「ない」等ノ分布図	31	否定形の 13 図。2-72<001>起きない（否定形）～2-84<004>しない（否定形）	△
6	「来ぬ」「来ない」等ノ分布図	32	2-83<003>来ない（否定形）	●
7	「為ぬ」「為ない」等ノ分布図	33	2-84<004>しない（否定形）	●
8	「なんだ」「なかつた」等ノ分布図	31	4-151<198>行かなかつた	△
9	「いで」「ないで」等ノ分布図	31	4-155<196>行かないで	△
10	「せねば」「しなれば」等ノ分布図	33	4-153<185>行かなければ/5-206<154>行かなければならない	△
11	「来まい」「来まい」「来まい」等ノ分布図	34	5-234<159>行くまい	△
12	「為まい」「為まい」「為まい」等ノ分布図	34	5-234<159>行くまい	△
13	「見よ」「見い」「見ろ」（上一段活用ノ語ノ命令）等ノ分布図	5	2-86<035>見ろ（命令形）	●
14	「受けよ」「受けい」「受けろ」（下二段活用ノ語ノ命令）等ノ分布図	4	2-87<034>開ける（命令形）	△
15	「来い」「来よ」等ノ分布図	6	2-90<036>来い（命令形）	●
16	「為よ」「為い」「為ろ」等ノ分布図	7	2-91<033>しろ（命令形）	●
17	「れよ。られよ」「れる。られろ」（受身ノ助動詞ノ命令）等ノ分布図	25	（参考になるのは受身形の 3 図。3-115<025>書かれる、3-116<072>来られると、3-117<073>される）	×